

考古かながわ 第4号

1993年3月31日

第16回神奈川県遺跡調査・研究発表会開催される

神奈川県庁の前に横浜のエキゾチックな風情を残したレンガ造の洋風建築の横浜市開港記念会館で第16回神奈川県遺跡調査・研究発表会が1992年9月27日に開催されました。思えば、16年前はじめてこの遺跡調査研究発表会が開かれた思い出多い会場です。

この発表会は神奈川県考古学会が主催となり、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会の後援、裏方として神奈川県立埋蔵文化財センターの協力により開催されました。

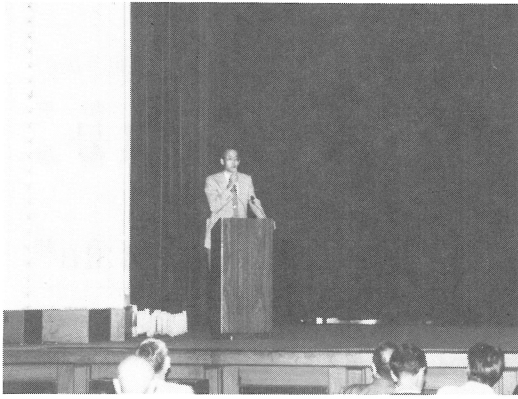
当日は約500人にちかい方々の参加を得、1階の会場では空席が少なく、熱気にあふれていました。

発表の成果について簡単に触れておきます。

1. 厚木市東町遺跡（平本元一発表）では近世厚木宿の町屋の遺跡と推定される発表、2. 鎌倉市今小路西遺跡（河野眞知郎発表）では学校建設か保存かで大きく揺れ動いている最中の発表で、武家屋敷をとりまく街並の状況と古代官衙跡の東限の柵の状況や付属施設の発見、3. 山北町河村城跡（石丸熙・関恒久・安藤文一発表）の調査では大庭郭の東側の堀切や蔵郭と近藤郭間の大堀切、本城郭の柵列、小郭等の内容、4. 鎌倉市大倉幕府周辺遺跡群（馬淵和雄発表）の調査は二階堂大路と思われる側溝と長大な柱

穴列が検出、5. 海老名市相模国分僧寺跡と相模国分尼寺跡（滝澤亮・須田誠発表）の調査では特に尼寺跡で経蔵跡が検出、6. 逗子市池子遺跡群 No. 4 地点（長谷川厚・山本暉久発表）では奈良・平安時代の木履、鞍の後輪、古墳時代では19棟の掘立柱建物址が検出、7. 伊勢原市石田・細屋遺跡（中村喜代重発表）では弥生時代の環濠が検出、平安時代の取っ手付平瓶、矢柄状の遺物、大陸製の陶器片等が出土、8. 寒川町倉見日本鉱業(株)新ひかり社宅内遺跡（木村勇・田村良照発表）では弥生時代の大型住居から磨製石斧、有角石斧、鉄斧、鉄剣等が出土、9. 秦野市東開戸遺跡（安藤文一発表）では翡翠大珠1点、琥珀大珠2点が土壙から出土、また土壙内で『甕被り葬』の人骨が検出、10. 小田原市内における関東ローム層の調査（山口剛志・諏訪間順・戸田哲也・小林義典発表）は最近市内で発見された旧石器をまとめたもの、そして11. 綾瀬市吉岡遺跡群（白石浩之・砂田佳弘）では第4黒色帯層から検出された県下最古級の石器群についてそれぞれ発表がありました。

午後の発表に先立って韓国慶星大学校助教授の申敬澈氏による記念講演が行われ、最近話題になった『金海市大成洞古墳の調査』について多くのスライドを用いて日本語で細かく紹介い



研究発表

いただきました。日本の古墳との関連が注目されます。

なお、発表の詳しい内容については、神奈川県考古学会から「発表要旨」(B5判43頁)が刊

遺跡見学会

—「海老名の歴史を訪ねて」に参加して—

石郷岡 真

12月6日の日曜日、神奈川県考古学会主催による「海老名の歴史を訪ねて」—古墳・古代・そして中世—に参加しました。大変寒い日でしたが、日本大学の亀井正道先生も含め35名の熱心な会員が集まりました。配布された親切な資料を見返していると、見学した遺跡(上浜田遺跡→三塚古墳群→瓢箪塚古墳→海老名市温古館→国分寺遺跡→秋葉山古墳群)のそれぞれに落ち着いたたずまいが思い出されます。

まず最初に訪れた上浜田遺跡は、中世の建築遺構群が保存された歴史公園となっています。柱穴には目印が置かれ、主な遺構には説明板がついていました。この遺跡を発掘された講師の國平健三先生には、調査当時の地形などについて話していただきました。また、三塚古墳群では後藤喜八郎先生にも説明していただきました。ここも3つの古墳が公園の一部として残されて

行されているので参照いただきたい。

また、鎌倉市今小路西遺跡の発表後、神奈川県考古学会としてこの遺跡についての保存要望をだすべきではないかとの会員からの提案がありました。このことについては別記のとおりです。

盛況のうちに遺跡調査・研究発表会が終わり、興奮さめやらぬうちに第2会場の中華街で懇親会が盛大に行われ、つわものは第3会場、第4会場へと我を忘れてしまよったそうです。なお、第17回神奈川県遺跡調査・研究発表会は1993年9月19日(日)秦野市文化会館で行われる予定です。

いるところでした。なお、この日は地元の方によって大掃除が行われ、多勢の方が枯葉やゴミを片付けておられました。その姿を見て、「見たり歩いたりするだけでなく、普段から文化財を守っていく姿勢が大切だな」と感じたことが忘れられません。

また、瓢箪塚古墳では東名高速を見下ろす墳丘に立って、秋葉山古墳群との関わりや当時の豪族の勢力範囲について後藤先生の解説を伺い、秋葉山古墳群でも各墳丘を巡りながら、実測の様子などを交えた話をお聞きしました。曇天のためやや見晴らしが悪かったものの、相模川を望む高台からの景色は寒さを補って余りあるものがあります。しかし、秋葉山古墳群の一部が工事で壊されていたことは残念でなりません。

さらに海老名市温古館と国分寺跡では、國平先生から国分寺に関する最新の発掘成果を伺うことができました。七重塔は水煙まで金色に輝いていただろうというお話は、相模国分寺の偉容を彷彿とさせましたし、広い国分寺跡を歩き



秋葉山古墳群

ながら聞く伽藍配置や寺域の話の合間に、たくさんの瓦片を見つけるのも楽しいものでした。

なお遺跡見学とは直接関係ありませんが、海老名を歩こうと考えられている会員の皆さんに役立つ情報を二つお知らせします。まず私たちは国分寺周辺での昼食に、「国分寺そば」を利用しました。おいしい蕎麦なのですが、この店の会計は1円単位の外税方式で大変厄介です。ご注意ください。また、国分尼寺は車窓から眺めたのですが、その際に利用した神奈中のバスの運転手さんは「一時にこんなにたくさんの客を乗せたのは初めてだ」とマイクを通して話をされ、私たちの爆笑をかいました。団体利用の場合は注意が必要かもしれません。これらに気をつけて、皆さんも海老名を訪れてはいかがでしょうか。

さて最後になりましたが、楽しく有意義なこの企画にご尽力下さいました考古学会の役員の方、また当日の講師として熱心にご説明いただいた國平先生、後藤先生に紙面を借りて御礼申し上げます。また参加したいと思います。ありがとうございました。

〈訃報〉 次の会員の方が逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

塚田 明治氏 1993年3月1日

遺跡巡り雑感 —大磯の横穴墓群—

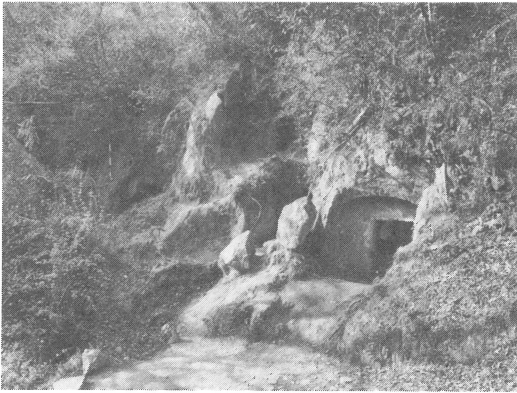
後藤 守

大磯の遺跡見学！先ず、頭に浮かんだことは、高句麗の王族、高麗若光王が百濟滅亡して渡来したのが、相模ノ国大磯と文献で読み脳裏に焼きついていて、大いに期待し胸を弾ませていたのである。

大磯には高麗山（こまやま）があり高来神社（高麗神社）があり高麗寺があったが、明治元年（1868年）明治政府の『神仏分離令』により高麗寺は廃寺となって、現在は観音堂と鐘楼だけが残っている。明治30年（1897年）『古社寺保存法』の公布により「高来（たかく）神社と改称されているが、本殿の正面に懸っている懸額には『高麗神社』と銘記されている。

今回は、大磯の遺跡巡りが横穴墓群に限られていて、東日本（坂東）の古代国家の形成、又は、縄文時代から石器時代に溯り日本列島の住民のルーツに及ぶものではなかった。勿論、そこまでは考えてもいなかった。期待もしてはいなかったが、横穴墓群を見てまわり、その余りにも荒らされているのには驚いた。大磯町郷土資料館の鈴木一男学芸員の説明では、過去に相当な盗掘が行われていて、墓とは知らず浮浪者が住んでいたこともあったそうである。

2月28日神奈川県考古学会の遺跡巡りは雨でお流れかと心配したが、前夜からの雨も上がり上々の天気になった。だが横穴墓を尋ねての細い山道は滑りやすく、足もとに注意しながら登って行った。前夜の雨で湿った枯葉が厚く山道に落ちていて、油断すれば滑りこけるようであった。奥の浅い低い山なのに、谷戸の沢は水量が多い。名は知らぬが木の芽が萌えていて、春の訪れを知らせていた。



揚谷寺谷戸横穴墓群

20分程も歩いただろうか揚谷寺谷戸に存在する横穴群に到着した。山の中腹に横穴墓が点在して、ぐるっと回った所にも、水の流れている谷川を渡れば、そこにも横穴墓が複数に存在している。内部の構造が玄室、羨道、天井の形態もまちまちで時代の変遷を知ることが出来る。

私は大分市の出身で子供の頃から、大分市周辺に数多く存在している横穴墓群を見てきた関係で、大磯の横穴墓群の規模の小さい点、数の少ないのに疑問を抱いたのである。

大分市の横穴墓群は、数十メートルの絶壁の中間部に蜂の巣のように、群がって存在してい

る。上からロープで下りなければ、横穴墓に入ることが出来ない。そして、その数が多いのである。

大磯の横穴墓は、台帳上では27基。平成2年には21基が確認されているという。この事実から推察すれば、相当数の横穴墓が存在していたが埋没している可能性が高いのではなかろうか

現在、神奈川県内は言うまでもなく、全国至る所で埋蔵文化財の発掘調査が行われているが、これらの発掘の殆どが、埋蔵文化財の破壊の為の記録保存の発掘である。学術的に保存を目的とした発掘は、如何程であろうか！。大磯の横穴墓群は神奈川県が文化財に指定して10年程になるそうである。荒廃した遺跡を県が文化財に指定して、地元の大磯町は、実質的維持、管理を行い小さい町として大変であろう。現に、神奈川県考古学会の遺跡巡りに際して、日曜日にもかかわらず、資料館の鈴木学芸員は出勤して辛い所に手が届くように、懇切丁寧に説明し案内して頂いて感謝しています。埋蔵文化財に関して、深く考えさせられる1日であった。

1993年2月28日

鎌倉市今小路西遺跡(御成小学校内)保存 に関する要望書の提出について

1992年9月27日に開催されました第16回神奈川県遺跡調査・研究発表会の際、会員の方より、今小路西遺跡の保存要望を県考古学会から提出するよう検討していただきたいとの発言がありました。この件につき、当日および10月6日、臨時役員会を開き検討を重ねた結果、以下のような要望書を作成、提出することにいたしました。

12月7日、日野一郎会長が鎌倉市役所へ要望書を持参し、関係部局の方々と面談し、市長、

市議会議長、教育長宛に提出しました。このことは翌日の朝日・毎日・神奈川新聞に報道されましたが、遺跡の保存については予断を許さないものがあります。

本来ならこの種の要望書は総会での会員の皆様全体による御理解・御検討を経たうえで提出すべきものですが、事態の緊急性に鑑み、このような形をもって御了解を得たく御願いたします。

神考学92-10

平成4年12月7日

鎌倉市市長 中西 功 殿
鎌倉市市議会議長 斎藤 俊男 殿
鎌倉市教育委員会教育長 米倉雄二郎 殿

神奈川県考古学会
会長 日 野 一 郎

今小路西遺跡(御成小学校内)保存に関する要望書

神奈川県鎌倉市御成町の今小路西遺跡(御成小学校内)の第5次発掘調査によって、古代の官衙遺構と中世前期の都市遺構が重複して発見されました。

奈良・平安時代の遺構としては、基壇を有する礎石建物4棟、掘立柱建物5棟以上、柵列2条があり、相模国鎌倉郡衙の政庁前面と正倉域と考えられます。また、中世では、鎌倉時代から南北朝時代の遺構として、交差する道路により区画された三つの街区跡に掘立柱建物・方形竪穴・土坑・溝などが見つかっています。これらの中世遺構は、今小路に面する商人・職人の家屋群及び武家屋敷門前の被官屋敷跡と考えられます。

ここから発見された遺構群は、1984年から1985年の発掘調査で発見された奈良～平安時代の政庁域及び中世前期の大形武家屋敷と一体をなしており、都市構造を解明できる考古学・歴史学研究上極めて重要なものといえます。

今回の調査によって発見された一連の遺構は、学問的に重要なばかりでなく、古都鎌倉はもとより、郷土神奈川にとってもかけがえのない文化遺産であります。

したがって、当学会としては小学校教育の重要性も十分認めるところであります。遺跡はその場所にあつてこそ意義があるものですから、この度の校舎改築につきましては抜本的に見直しを行い、今小路西遺跡(御成小学校内)第5次調査区域の古代・中世遺構を損傷することのないように配慮されることを要望いたします。

以 上

当学会では埋蔵文化財の保護・普及について従来よりさまざまな催しをもって努めてまいりました。そのような中で、このような形の関係機関に対する保存要望等の手続き、方法につい

ては今後さらに検討を深めるよう努力したいと存じますので、会員の皆様の御理解と御協力を御願いたします。

鎌倉市今小路西遺跡(御成小学校内)

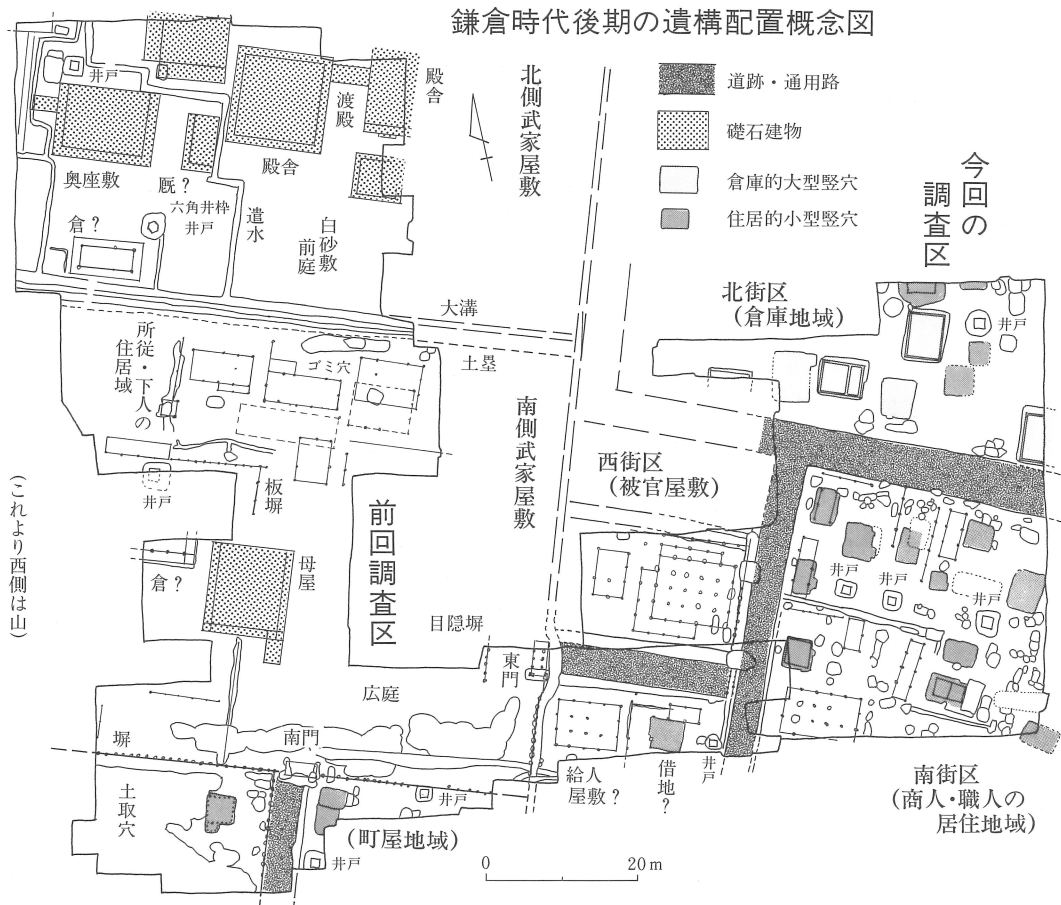
発掘調査成果の要点

河野眞知郎

神奈川県考古学会としても保存要望書が出された標記遺跡については、昨年の遺跡調査研究発表会で概要報告をした。現在報告書作成中であるが、調査成果の要点を紹介してみたい。発掘調査は1984年から昨年にかけて5回行なわれており、発掘面積は約9000㎡に及ぶ。検出遺構は奈良・平安・鎌倉・室町・江戸各時代のものが重複してみつまっている。中でも注目されているのは、鎌倉時代に事実上日本の首都であった鎌倉の街の様子が明らかになったことと、古代律令体制下で各地に置かれた役所である郡衙

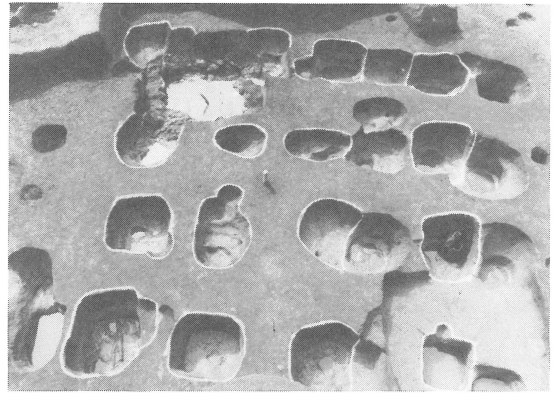
の遺構群が見つかったことであろう。

鎌倉時代の鎌倉の街については文献史料や絵画資料が乏しく、昨年のNHK大河ドラマ「太平記」のセットも室町時代末の京都洛中を下敷きにして作ったと聞く。御成小学校内ではその実物が見つかったといえよう。鎌倉時代後期の層では西側の山裾に二区画の広大な武家屋敷が並んで検出され、当時の武士の生活実態が明らかになった。とくに北側の屋敷は高級な礎石建物が寝殿造ふうに配され、重要文化財級の輸入陶磁器が大量に出土した。南側屋敷の東外方で





中世北街区検出の石造倉庫跡(南北朝時代)



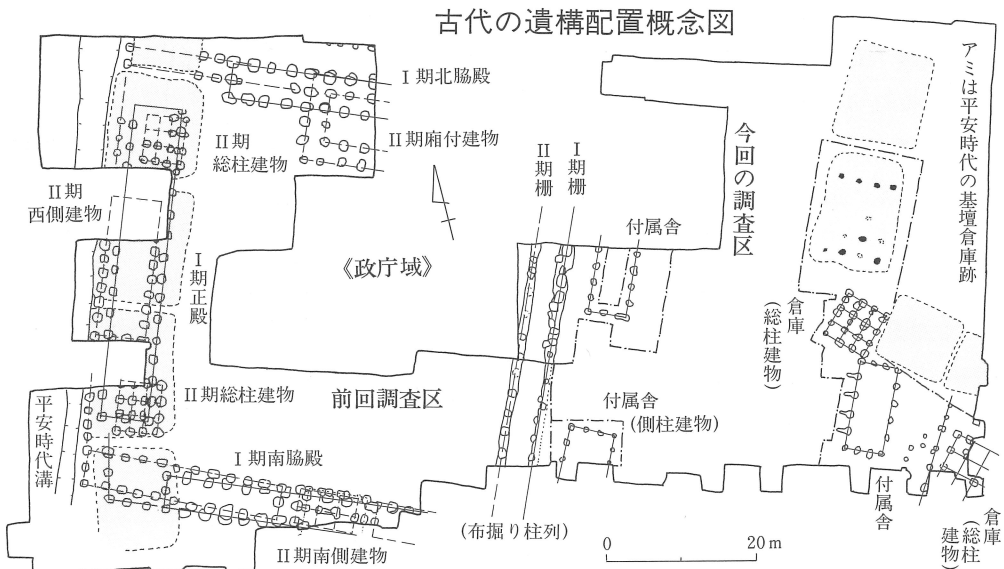
古代の倉庫跡(総柱建物、奈良時代?)

は今回の調査で、T字状の道路跡（上面に車の轍を留める）とそれによって区画される街の一画がみつかった。北側の街区には倉庫らしき大型の竪穴群が集中し、南側の街区では20~30坪ほどの小区画に町屋的な小竪穴や小屋、井戸(何軒かで共用か)があって、商人・職人などが居住したらしい。西街区は薬研堀に囲まれた屋敷で、南側武家屋敷の家来(被官)が居たと思われる。このように様々な階層の集住する都市の様子が明らかになったことは、「教科書を書きかえるような」新発見といえよう。

中世層の下には奈良・平安時代の遺構面があ

るが、中世遺構の保存をはかるため古代調査は部分的にしかなされていない。それでも1985年にはコの字状配置の巨大な掘立柱建物群と「天平五年」(733年)銘の木簡が検出され、相模国鎌倉郡の郡衙政庁がここにあったことがほぼ確実となった。今回の調査では政庁域東辺の柵跡(布掘り柱列)、付属舎群(側柱建物)、倉庫跡(総柱建物)などがみつき、郡衙の構成が明らかにできる全国でも稀な例となってきた。

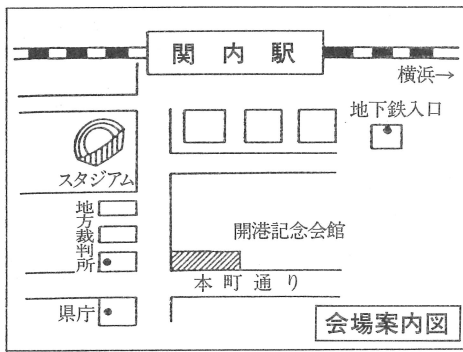
こうした貴重な遺跡(鎌倉時代の鎌倉は他地域には絶対にはないのだから)は、未来に向けて保存されるばかりでなく、歴史の実物教材として活用される必要があろう。



総会のお知らせ

1993年度の総会を下記のとおり開催します。

- 日 時 1993年5月22日(土) 13:30～
- 場 所 横浜市開港記念会館
(横浜市中区本町1-6)
- 議 事 (1) 1992年度事業報告
(2) 1992年度収支決算報告
(3) 1993年度事業計画案
(4) 1993年度予算案
(5) 特別講演会(網野善彦氏)



『考古論叢 神奈河』第2集の刊行

本雑誌は神奈川県及びそれに関連するテーマの学術情報の発信を中心に、身近にある資料や日頃思っている研究上のヒントを紹介したものも合わせて掲載し、会員の皆様と共により良いものに育てていきたいと考えております。会員の皆様の投稿をお待ちしています。

第2集は次のような内容になっております。
先土器時代終末期から縄文時代草創期初頭にかけての尖頭器文化—風間 I a 石器文化層の位置づけ—……………麻生順司
久地伊屋之免古墳と虚空蔵山古墳—割竹形木棺墳をもつ南武蔵前期古墳の素描—……………持田春吉・村田文夫
中世鎌倉火鉢考—東国との関連において—……………河野真知郎
小田原城における戦国から近世初頭の陶磁器群

の様相……………諏訪間 順
(保存情報) 神奈川県指定史跡「吉井貝塚を中心とした遺跡」の整備について……………野内秀明
(資料紹介) 鎌倉市今小路西遺跡出土の戦国土壙一括資料……………清水菜穂
B 5 版・116頁で、刊行は4月末になります。

1992年度役員会記録

- 第1回 1992年4月22日(水)県政総合センター
議題 ○ 1992年度事業計画 他
- 第2回 1992年8月6日(木)県政総合センター
議題 ○ 第16回遺跡調査・研究発表会の準備
- 第3回 1992年9月18日(金)県立埋文センター
議題 ○ 第16回遺跡調査・研究発表会の開催
- 第4回 1992年10月6日(火)県立埋文センター
議題 ○ 鎌倉市今小路西遺跡の保存要望 他
- 第5回 1993年1月28日(木)県政総合センター
議題 ○ 会報・会誌の編集状況
○ 見学会・講演会の開催予定 他
- 第6回 1993年3月9日(火)県政総合センター
議題 ○ 1992年度下半期事業報告
○ 1993年度総会について 他

★本学会会員数は1993年3月9日現在457名です。新年度会費(3000円)は総会時にも受け付けいたしますが、郵便振替などもご利用のうえ、お早めに納入ください。《事務局》

考古かながわ 第4号

発行 神奈川県考古学会
発行日 1993年3月31日
編集者 伊藤 郭、川口徳治朗、小宮恒雄、後藤喜八郎、塚田順正
事務局 東海大学文学部考古学研究室内
〒259-12 平塚市北金目1117
郵便振替 横浜 4 - 7 1 2 0 8
神奈川県考古学会
印刷所 東邦印刷株式会社